

一般質問(文責は質問者)

市政を問う

農林水産振興ビジョンの推進体制は



浅沼 幸雄 議員
(正心会)

課題も確認した。それらを生かしながらこれまでの取り組みをパワーアップさせるため、タフビジョンを策定した。

実践的アドバイスもますます重要となることから、アドバイザーの配置も計画している。

ha、額にして約1億円以上という試算もあり、深刻な状況で、放置しておけないと認識している。対策については、平成22年度は更に

予算を増額し取り組みを強化させ、同時に近隣市町とも連携を図りながら広域的な対策も検討していく。

問 政権交代により農業政策が大きく変わろうとしている今、当市では計画の期間を平成22年度から27年度までの6年間とする「遠野市農林水産振興ビジョン(通称タフビジョン)」を策定した。当局ではこのタフビジョンをどのような体制及び展開により推進を図るのか。

答 これまでアストを設置し、各種農業政策を実施してきた。今回のタフビジョン策定に当たり、アストの中間検証を行いその結果と

その展開には、関係機関の連携・協働のもと、更なるマンパワーが必要と考え、本年4月から遠野行政センターにアスト、農業政策担当、農業委員会事務局が移動する予定であり、それにより農業部門のワンフロア、ワンストップ化が実現し農家の利便性の向上が図られる。

又、農業委員会と協議し、

平成22年度から、業務を特定して農業委員の皆様にもタフビジョンの推進に協力してもらおうことへの合意形成にも努め、農業者への実

関係機関との適時適切な連携のもと、必要な対策を柔軟に講じていく。

問 近年の状況を見ると、毎年野生鳥獣の被害が増加し、拡大し続けている。当局ではこの被害状況をどのように把握し、抜本的な対策をどう講じていくのか。

答 現在、農作物に大きな被害を生じさせている主な鳥獣は、ニホンジカ、ツキノワグマ、カラスであり特にシカによる平成19年度

の被害面積は、1,570



ブランド化が期待されるブルーベリーの選別作業風景